

## キュウリホモプシス根腐病の萎凋症状の回避対策

### 研究のねらい

東北地域では、キュウリホモプシス根腐病が発生し、大きな被害をもたらしている。それに対し、収量低下の要因となる茎葉部の萎凋症状を回避する技術を開発する。

### 成果の内容

- ①キュウリホモプシス根腐病に有効な薬剤（クロルピクリンくん蒸剤）を畦内だけに処理してマルチし、ガス抜き等の耕起作業をせずに、所定のくん蒸期間を確保して苗を移植する。これにより、根部の病斑形成が効果的に軽減される（図1）。
- ②畦の両脇にマルチシートの裾を埋め込み、消毒した土壌内にできるだけ長期間根域を留め、根と汚染土壌を物理的に隔離すると、根部の病斑形成の軽減効果が向上する（図1）。
- ③防除対策を実施した圃場では、根部の病斑が進展した場合でも、収量低下の直接の要因となる萎凋症状の発生は顕著に抑制される（図2）。

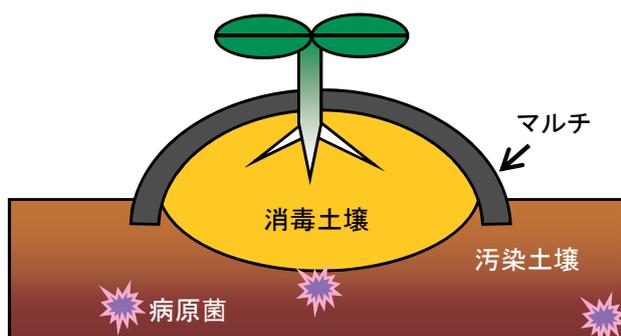


図1 安定した防除効果を発揮させるためのマルチ畦内土壌消毒法

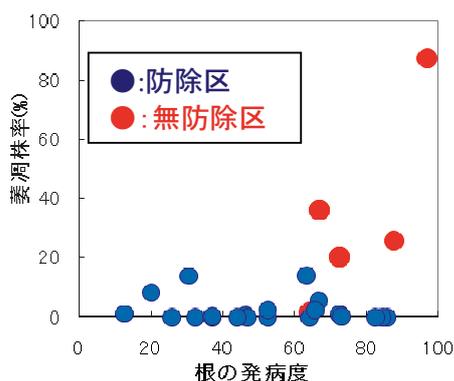


図2 防除対策の現地導入による病害発生の軽減効果(左)と防除の一例(右)

### 成果の利活用

- ①本防除技術の詳細は、「キュウリホモプシス根腐病防除マニュアル」として、東北農業研究センターのホームページ (<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/periodical/pamphlet/list.htm>) で公開している。

